H22 年度 第２回 高知市地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日　時：平成 23 年２月 14 日（月）13:30～16:15
場　所：こうち勤労センター４階会議室

《議　事》

（１）全体スケジュール等について
（２）地域アクションプランについて
１）　平成 22 年度までの取組状況等について
２）　平成 23 年度に向けて
（３）産業振興計画の改定等について

【意見交換】

○観光遊覧船は、乗船客も増えてきており、魅力があると非常に良い評価である。今は、堀川から出ている。船着き場の整備が必要かもしれないが、鏡川からも出せるようになれば、街中から気軽に乗れ、まち歩きとセットにするなど、新しい展開も生まれてくると思うし、さらに魅力も高まると思う。是非、検討をお願いしたい。
→水深の問題もあり、季節を通じて出せないかもしれないが、確認する。

○進捗が遅れている取組についての説明があったが、産業振興では、民間の推進力が必要。用地の確保や意思決定などが遅れているのであれば、行政として何らかの支援等を行えば、より進むのではないか。
→具体的に用地の確保が遅れているものは、AP10 番の「春野地区の農産物の付加価値向上」の取組で、22 年度に加工場を整備する計画であった。関連する駐車場の用地などの確保の調整に時間がかかり、１年ほど遅れたが、来年度整備できることになった。用地などは、民間同士で話し合っていただくことが基本となるが、今後も、周辺の支援など、行政としてやるべきことはやっていく。

○高知市森林組合では、今まで林業に携わっていた OB の方に季節的に助けてもらって間伐をしているが、高齢化してきており、確保が難しくなっている。これは組合として努力していかなければならない問題だが、川下にある製材、ペレット工場等の充実、付加価値を付けるために、県としてどのような取組を進めているのか。
→高知県では、40 万立方ぐらいの素材の生産があり、加工品、製材品としては約 12 万立方ぐらいある。そのうち、県内で消費されているのは４万立方で、後は県外に出ている。地元の製材加工の振興を図るためには、県内消費を増やすことが重要となる。木造住宅、軸組工法の木造住宅を増やしていくために、県も補助金を継ぎ足している。なるべく県内の木は、地産地消で県内で使っていただこうと取り組んでいるところ。
→民主党になって、国内産の材をできるだけ使っていこうということで、いろんな法律改正が出てきており、学校などの公共建築物は基本的に木材でという法律も施行されている。今後、特に市町村では学校の改築などがあるので、それにより木材振興を図っていくことができる。
それと、今、追手前小学校の跡地に図書館、こども科学館、点字図書館を建てることを検討しているが、全体面積が約２万平米もあり、構想が大体固まってくると、内装材などに県産材を積極的に使うという話を深めていくことになる。新たな国の政策も出てきているので、どういうふうにすれば高知県に取り入れることができるかを考えていくことが重要。

○農業分野では、加工はショウガに力を入れていこうということで、シロップを試行錯誤して昨年 11 月に製品化にした。その基になるショウガ汁は、現在、業者に委託しており、それを別の業者に委託して製品化している。なるべくコストを下げるために自ら搾汁機を購入してやったらどうかと考えており、本日の資料にも課題として入れてくれているが、実現に向けて、行政の一層の支援をお願いしたい。

高知県産業振興推進部　計画推進課
電　話　088-823-9334
ＦＡＸ　088-823-9255
メール　120801@ken.pref.kochi.lg.jp

→従来、国の補助金に県・市が上乗せして支援してきたが、農林水産省の予算が大幅に減ってきており、苦労している。県・市で調整させていただく。
→高知県工業会では、ものづくりの地産地消ということで、いろんな団体などから寄せられたものづくりの案件を形にする取組を進めている。最近では、宿毛市の直七の搾汁機械を会員企業の垣内が作った。できれば、そういう情報をいただき、できるかは検討しないと分からないが、協力させていただきたい。

〇田舎レストランについては、検討を進めてきたが、経済が冷え切って、市内のレストランでも空席が多くある中で、収支を試算しても苦しい見通しであり、諦めてはいないが、建物の建設のための投資は控えている。現時点では、加工所で加工したものを直販店で売っており、地産地消についてできる努力をしている。

〇間伐材の利用で人工魚礁については、今回、地域アクションプランから外れることになるが、効果はあるが、魚礁を沈めているところでは、専業の漁師の前に、遊漁者が大量に押しかけて、漁業者が操業できないという現状。いかに資本投下をしても我々漁業者は恩恵を被らないという意見がある。今回はそういうことで辞退し、別の提案ができる機会を待って、またお願いしたい。

〇ベトナムでは１人当たりの米の消費量が、日本人の何倍もあり、あらゆる食材、特に日本で小麦を使っている食材、まんじゅう、パン、麺類なども米で作っているようである。高知は米どころでもあるし、二期作もできるところでもあるので、率先して取り組んでみたら面白いと思う。
→農業関係では、米の消費拡大をするために、米粉を原料として商品づくりが進んでおり、本県では、土佐町で米粉の機械を導入し、うどんなどいろいろな米粉の製品を作って販路拡大を図っている。
→高知市の学校給食は、毎日２万 5,000 食ぐらい出しているが、週５日のうち４日は米飯。あと１日だけは、子どもたちの要望もあり、パン給食を残しているが、このパンを米粉でやりたいと思っている。単価がちょっと高いので、１学期に１回しか実施できていないが、今後、増やしていきたい。
→以前、高知市で米粉の製粉工場という話もあったが、嶺北での生産能力に余裕があるので、嶺北の方でこれ以上生産ができないということになれば、高知市でも考えていかなければならないと思っている。
→米粉や米粉の加工については、時代の大きな流れだと思うし、１つのチャンスだと思う。米粉の特産物、特に、うどんなどは香川に張り合って、米のうどんがおいしく食べられるようなＢ級グルメを作っていただき、それをブームにしていく。そういうことに取り組めば面白いと思うので、研究をお願いしたい。

〇先ほど、事務局からも説明があったが、それぞれの取組を横につないで、しかも販路を拡大していくことが重要と思うが、具体に、どうつないでいくのか。
それから、23 年度に統合するもので、環境に優しい未活用資源の有効活用というのがあるが、環境というのはそこだけでやったらいいということではなく、他のアクションプランでも環境という視点を薄く広く持っていっていただけたらと思う。
→観光遊覧船と御畳瀬とのつながりでは、観光と沖合底引きの消費拡大というものをつないでいる。あるいは、春野のトマトも、農業者と商業をやっている方が連携をしながら売っていこうというもの。そういう目を持って物事を考えていってつないでいくということが重要だと思っているので、そういった視点を持って、私どもが取り組んでいくという意味で説明させていただいた。
→トマトは、いろんな加工食品があるが、県外だけでなく県内でも PR をしていくことが重要。自分たちが食べてないものを持っていって、珍しいから持ってきたというのではなくて、おいしいから持ってきたっていうような伝え方をしていきたい。

○今年２月に開催されたスーパーマーケットトレードショーは、高知県から 35 社が出展し、自分も行っていたが、バイヤーからはショウガ茶を開発してほしいという話があった。高知県産のショウガはブランドにもなっているので、いろんなジャンルに持っていける体制を整えれば、販路はかなり伸びていくのではないかと思った。ユズについても、スライスはあるが、みじん切りまでできないかという話があった。そういう細かい要望に応じた加工体制ができていけば、販路の確保が一気に進んでいくのではと思った。

○「てんこす」は、１日平均の売上がほぼ目標どおりという説明であった。最初は、珍しさもあってお客さんも多いと思うが、お客さんが減ってくると経営が厳しくなってくると思う。どういうふうに経営改善をしていくかアドバイスをし、それを実行していくよう指導をお願いする。
→補助金が切れた後でも、自立してやっていけるように、引き続き、県・市が連携して取り組んでいく。

○春野の山のほとんどは、竹にやられて全滅のような状態。この竹を利用できれば一石二鳥で、大変いいことだと思うが、竹バイオマスの取組は、どれほど進んでいるのか。
→春野だけではなくて、北山でも、かなり竹が繁殖しており、このままでは山全体が竹の山になってしまうので、高知市としても早く事業化したいと考えている。
→竹バイオマスの事業は、春野町当時から取組を進めており、当初から進出を検討している企業と話を進めている。その企業は、孟宗竹の皮を利用するだけで、他の利用方法についての実効性、採算性を伴った活用策がまだ詰まり切っておらず、引き続き検討をしているというのが実態。

○ふるさと博は、楽しみな内容がいっぱいで、すごく期待している。あとは高知の中の資源をうまく活用する方法を考えてみてはどうか。路面電車は、高知の大きな資源だと思うので、点在している観光地をうまくつないでいく、もしくはその途中に人が下りて、そこで体験して楽しかった、おいしかったといったものをつないでいくことも考えてほしい。
○偉人伝では、せっかくたくさんの会場があるので、イベントも５つの会場だけではなく、龍馬の生まれたまち記念館や自由民権記念館などでも、いろいろなことができると思うので、網羅的にやってもらえれば、さらに魅力が高まるかと思う。それから、イベントなどを相互に結ぶ、先ほどの路面電車ではないが、交通も含めてツアー、まち歩きを企画するとか、それに合わせた周遊ルートみたいなものを考えていただければ、迷わず効率的に回れると思うので、ご検討をお願いしたい。
→「土佐・龍馬であい博」でやっていた MY 遊バス、ガイド付の観光バス、東部観光、四万十足摺を結ぶバスは、引き続き走らせる。また、MY 遊バスに乗った方には電車の無料パスを差し上げている。直接、施設同士を結ぶ新たな公共交通を今回構えることまではしていないが、引き続き続けていく。それから、「龍馬伝ふるさと紀行」として、土佐の志士 44 人の偉人をそれぞれ「龍馬伝」で出た俳優さんとつなぎ合わせ、関連する史跡などを紹介し、回っていただく取組を考えている。その交通も含めて、さらに検討していきたい。
→現役の電車では、土佐電鉄が日本で一番創業が古い。110 年ぐらいになっている。今後、電車といろんな館の連携した記念チケットも含めて、考えていく必要がある。

○高知が作っているのは、多分樹皮も一緒に引っくるめた固形型のブラウンペレットだと思うが、ホワイトペレットを作ってもらうことができないか。というのは、ペレットストーブに、ホワイトペレットを入ると、木材のいい香りがする。ブラウンペレットを入れて燃やしたら詰まってしまって、うまくいかなくなったということがあり、家庭用のペレットストーブが広まっていけば、需要がもっと増えてくるのかと思う。バイオマスのエネルギーに関して、高知県でさらに研究していただけたらありがたい。

○今回、カタールでのサッカーの試合前によさこいを踊らせてもらった。見ている人と踊っている人が１つになる楽しさがサッカーという競技にすごく合っていて、日本の大使からも、応援団をまとめてくれたのはよさこいの力がすごく大きかったというお礼状が届いた。よさこいは

日本の祭りの中でも、どの国に行っても巻き込んでいける良さがある。海外に高知の魅力を伝え、来てもらうためには、「龍馬」と「よさこい」は大きな柱となるので、別々に進めない方がよいと思う。「龍馬」と「よさこい」は、自由とか、高知県人の時代を楽しむ力とか、共通点があり、そのあたりをもっと魅力として盛り込んでもらいたい。
それと、この７月に「龍馬伝」のパビリオンができて、その後追っかけるように「よさこい」が始まるので、駅から電車とか、間伐材を利用した通行手形とかで、全体をトータルで打ち出すことをやらなければいけないと思う。やはり魅力のある町じゃないと観光客が来ないので、歴史や文化を大事にすることが重要。全国から集まる踊り子さんからすれば聖地である追手筋に、すごく高い建物が建つと嫌だろうというのは何となく感じるところで、図書館だけ、よさこいだけ、龍馬だけということではなく、全部がトータルでビジョンを持っていってもらいたい。

→ソフト面での観光と、町並みのような景観を含めてのハード面とが、バランスが取れているというのはすごく重要だと思う。

→３月から４月にかけて、台湾から 180 人乗りぐらいのチャーター便で４回高知に来ることが決まった。それを皮切りに、さらに便の回数を増やしていく、あるいはそれを定期便にしていきたいということで PR もしてきた。韓国の方も SK ﾜｲﾊﾞｰﾝｽﾞの監督さんの配慮によって、一旦沖縄に決まっていたファンツアーが、高知にやってきてもらえた。そういったいろんな取っかかりをうまく生かして、当面は韓国、台湾を中心としながら、今後はタイや香港でも「龍馬伝」が放送されるので、東アジアを中心に売り込みをさらに活発にしていきたい。
併せて、来たお客様が分かりにくいということのないように受け入れ態勢をしっかりしていく。まずは案内板の外国語表記を順次進めており、また人材の育成のための国際観光受け入れフォーラムを開催したり、そういったハード面、ソフト面での受け入れ態勢を整備するとともに、PR をさらに積極的にやっていく。国別のしっかりした戦略を設けて、それぞれの文化に応じた売り込みを進めていきたい。

○高知の魅力、高知のブランド力って何だろうと考えた時、どこの町に行っても必ずお城の見学に行くとか、お城を自慢しているというのがあって、お城がほんとに自分たちの自慢できるものとして、その自慢できるようになるまちづくりを進めていくと、多分来られた方もがっかりしないで、いい町だねと言ってくれるんじゃないかなと。それがブランド力になっていくのかもしれないと思う。

○工業関係で、今回提案のあった、ものづくりの地産地消と産学官の連携は、二次産業にとっても喜ばしい取組。特に、ものづくり地産地消センターは期待している。ただ、県内の企業が取り組むには開発期間が要るので、１、２年の余裕があれば検討することもできるが、余裕がなかったら恐らく県外に発注をせざるを得ない状況も生まれてくると思う。なるだけ工業関係者に早い時点で情報を提供していただいて、検討する時間があればより進んでいくと思うので、よろしくお願いしたい。

→土佐山のユズの搾汁施設を更新するときに、県内メーカーのものを使いたいということで調べたが、当時は残念ながらなかった。工業会からまずは情報を入れてほしいと要望されているので、県・市でキャッチした情報を工業会に相談する機会を作っていきたい。

○よさこいは、全国 200 カ所以上で踊られていて、それを本県の産業に活かすことも考えていかなければいけない。本家の高知で衣装の展示会、ギフトショーのよさこい版のようなものをやって、今年チーム出そうと思っている人たちがいち早く高知に、見に来たりすることができないか。

→よさこい 60 周年に向け、いろんな取組を深めていかなければいけないと考えている。

⇒ <u>地域アクションプランの見直しの方向性は、委員から異論はなく、３月 22 日のフォローアップ委員会に諮ることで、承認された。また、委員から出された意見は、今後の展開の中で参考にさせていただくことで了承された。</u>